日本ジオパーク全国大会
男鹿半島、大潟ジオパークに参加して

内匠　五月枝

全国大会に参加して感じた事。

今回の大会は地域の子供たちが、自然体で楽しくジオパークに参加している様子が随所に見られ、今までにない試みに感心しました。

受付で頂いた資料の中に、男鹿市、大潟村の小学生から直筆の歓迎メッセージが同封されていました。私は大潟小4年生の男子児童からで、「四季折々に色々な花が咲く大潟村へ是非おいでください」と、お礼の言葉と銚子のPRで返信しました。

開会セレモニーでは司会を二人の女子高校生が見事に勤め上げ、中学生4人が地元の紹介をユーモアたっぷりに分かりやすく伝えていました。

パネルディスカッションでは、昨年日本ジオパークに仲間入りした下北ジオパークが、認定審査時に小学生が大活躍した様子をむつ市立苫生小学校の先生方から報告がありました。

ジオツアーは「ゆざわコース」に参加しましたが、交流会では地元の小学生が郷土芸能を披露してくださり、会場の後方でお母さん達が心配そうに見守っていましたが、無事終わった時の安堵した笑顔が印象的でした。

郷土の文化や歴史等を学び、楽しんでそれを伝えることができる子供達がいる。地元の大きな財産だと感じ、地元大好きな私も、もう少し頑張らなくてはと痛感しました。

海の上からジオサイトの保全を考える

新井野　芳恵

分科会は「海の崖からジオサイトの保全を考える」です。安田海岸の波で渡れない場所は梯子を持参して渡してくれました。植物化石や、石炭になりかけた亜炭層を見ることができます。・風ヶ浦のたくさんある火山灰層も年代とそれぞれがどこから飛んできたとか話せると興味がわくのではと思いました。

長い北の海岸は漂流物でいっぱいです。これらは波で行ったり来たりしているうちにマイクロプラスチックとして魚の体内に取り込まれます。オランダの高校生は海洋ゴミを吸い取って回収するシステムを考案したそうですが・・・討論では鳥取砂丘は除草作業で人が沢山入る事が動物の巣にも影響を与えるということや観光のラクダ乗りも中止になるとか、保全と景観を守るという事は難しい問題で自然に任せるという意見もありました。・風ヶ浦では保全は難しい問題ですが先送りしないで行政も真摯に考えてほしいです。

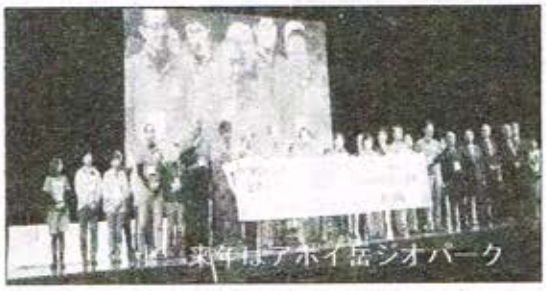
その後バスで回ったツアーは寒風山の草原と夕焼けに心を癒され、翌日入道岬見学の後小さな船に乗り奇岩をぬうように回ります。ゴジラ岩は以外に小さかったけど大会は北の大地を満喫できおもてなしを感じるツアーでした

東北は私にとって第2の故郷です。帰りは五能線や仏が浦にもう一度行きたいと思いましたが一日で回れないので五能線だけにしました。

五能線は「リゾートしらかみ」として秋田～青森まで147k、80k余りは車窓から日本海沿いに走ります。カラフルにデザインされた車内では人形芝居や三味線のイベントや展望室、カウンターとあり絶景がみられる場所では電車はゆっくりとスピードを落とします。

記憶にある五能線はもっと海岸すれすれに走っていた気がしましたが樹木が伸びたためでしょうかかっての感動はありませんでした。

今回の男鹿半島・大潟大会は東北を満喫した大会でした。



全国大会雑感

藤身　隆雄

①、男鹿半島での全国大会へ行く途中、新日本橋で前の電車が「異音」を聞いたため止まってしまい、予定の秋田新幹線「こまち」に乗れなかった。

反省点、東京駅での乗換は少なくとも30分、できれば1時間くらいの余裕を持って乗換するよう、今後は計画をしたいと思った。

②、周りの人への素早い心使いの大切さを痛感した。「食い倒れ・・・ツアー」のバスの前から2番目の座席に茂木さんと共に乗車した時、一番前の座席にガイドが座るので、その座席にいた人は後ろに行かなければならなくなった。しかし、その人はバスに酔うという。それを聞いた茂木さんは間髪を容れず「私たちが後ろに行きます」と。

東京駅から帰りの高速バスに乗車、茂木さんと私は別々に一人ずつ座席を占有、そこへ幼い子を連れたお母さんが隣の相席へ、すかさず茂木さんは「私後ろに行きますからどうぞお二人で」と。

こういうことは、日頃から常に周りの事をしっかり見て、今何をなすべきかを考えているからできることだと思う。3日間茂木さんと常に共に行動したが本当にいい体験をさせていただきました。ありがとうございました。

③、銚子からの参加者はてんでんばらばらに男鹿半島へ。飛行機、JR、高速バスなど利用する交通機関も異なる。折角の機会なのだからどうして参加者が一緒に行って、車中で友好を深めたりしないのか、私は不思議に思いました。来年は北海道のアポイジオパーク、参加者は一緒に行動してはどうでしょうか。心強いと思います。